

学校運営協議会議事録

校名	府立西浦支援学校
校長名	吉村 晋治
准校長名	石川 紀子

開催日時	令和8年7月2日(木) 10:00～11:30
開催場所	大阪府立西浦支援学校 校長室
出席者(委員)	加藤委員、鳩野委員、葉山委員、八木委員、今西委員、荻野委員
出席者(学校)	吉村校長、石川准校長、三宅教頭、北條教頭、玄事務長、福井教務主任
	高橋学校安全主任、菱沼部主事、川口首席、小池首席、丹沢首席、小海首席
傍聴者	0人
協議資料	
備考	

議題等(次第順)
(連絡・報告) ・令和8年度学校経営計画 ・令和8年度学校安全の取組みについて ・令和8年度農福連携の取組みについて
協議内容・承認事項等(意見の概要)
【委員からの主な意見】 ・高等部は中学部からの内部進学の子以外にも地域の中学校等からの生徒がほぼ同数おり、経験してきたこと等の背景も異なるため、一人ひとりに応じた支援がより大切になるかと思う。系統的なキャリア教育や進路指導など工夫しながら丁寧に支援をお願いしたい。 ・この数年で教育課程が変更になり、学校生活が慌ただしくなっているように感じている。環境の変化に弱い生徒は慣れるのに時間がかかり、中学部・高等部の生活があっという間に過ぎてしまうのではないかと心配している。 ・進路指導部から担任の先生方にしっかり卒業後の進路に関する情報を伝達していただき、保護者からの進路に関わる相談に担任が応じられるようにしてもらえると嬉しい。 ・企業就労、福祉的就労、生活介護等の進路選択を18歳の生徒にさせることについて、疑問を感じることもある。自立訓練等の福祉サービスも自力で通所できることが前提になっていてハードルが高い。18歳を過ぎても学びを続けられる課程(専攻科等)がほしいが、実現は難しそうである。 ・欧米諸国は障がいがあっても21歳までは教育を受ける権利が保障されていることが多いが、日本とは教育や福祉に関する法律も国民の考え方も異なるため、わが国では18歳以降の福祉的なものを含む教育制度の充実が難しいかもしれない。文部科学省と厚生労働省の間の考え方の違いや連携の難しさが、制度が充実しない原因かもしれない。 ・働き方改革の考え方は教員に浸透してきているように感じる。それでも残業時間が減らない人は「生徒のためにこれは削れない」と思って残業しているので、「早く帰ってください」と言うとストレスを増大させる可能性がある。ただし長時間の残業が長期間に渡ると身体の不調につながる危険性があることも確かであり、残業時間の縮減の徹底は難しさがある。

次回の会議日程	
日時	令和8年11月下旬 10時開始予定
会場	府立西浦支援学校 校長室